

## Yoshihito Nishimura 西村 好仁

遠征客と地元アングララー。  
夢の実現と熱意が交差するこの場所を  
これからも大切にしていきたい。

私がルアーゲームを本格的に始めるきっかけとなり、最も通いつめた場所が高知県の中央部を流れる仁淀川である。他の河川ではあまりアングララーに会うことも多くなく情報も全くなかったため、全くの手探りで釣行が多かったのだが、仁淀川へ釣行するようになって数人のアングララーと顔見知りになり、色々と情報を交換するようになってからは仁淀川への釣行回数も多くなってきたのである。それから数年してシーバスのメーターオーバーがキャッチされた情報なども入ってくるようになったのだが、それは運の良いアングララーの話と聞きながしながら、私もいつかメーターオーバーを手にするのを夢に思い、仁淀川へ十数年釣行していた。

そんなある日、河口付近にコンシロの大きな群れが入ってきており、そのコンシロを捕食するためシーバスが回遊してくるのではないかと思い友人と釣行。早い時間に70cmクラスのシーバスをキャッチしたものの、次第にバイトも少なくなり友人も帰路につき私も諦めモードに入りながらキャストしていると、今まで聞いたことのないような捕食音がしたかと思うときなりロッドが引き込まれ激しい引きでリールからラインが出されていく。無我夢中でフアイトし、なんとか足元まで寄せることができた魚は今まで目にしたことがない巨大なシーバスであった。ランディングしたそのシーバスを抱きかかえる手の震えが止まらなかったことは、今でも鮮明に覚えている。

それから何度と無く仁淀川に釣行し様々なドラマが生まれた。この川は、多くのアングララーとも出会うことができた思い出深い川であることも

に、息子達とも幼い頃から釣りを通して時間を共有することができた、私の人生にとって大切な場所である。

最近では浦戸湾や仁淀川、四万十川などへアカメやシーバスを求めて訪れる県外アングララーが目立つようになってきた。私の20数年来の友人であるim旦アスター小林厚治氏もその一人であり、最初にアカメを狙いにやってきたのが20年くらい前だったと記憶している。その時は完敗だったのだが、彼はアカメに対する想いをずっと心に持ち続けていたようである。

時代の流れと共にタックルも進化し情報も増え、我々も年をとったが、その当時と変わらない熱い気持ちを持ち続けた結果、一夜にして2つもの夢の記録を打ち立て、一生消えないであろう記憶を刻む事を成し遂げてくれた。その一部始終を隣で見ることができたのは大変光栄だったし、熱い握手をガツチリと交わし、彼を慕う高知の仲間と明け方まで祝杯をあげられたことも嬉しかった。

県外アングララーの方にとって、高知は夢を叶えられる場所かもしれない。しかし地元高知のアングララーも目標を持ってフィールドへと足を運んでいる。お互い目標を持ち、釣りという共通点で繋がっているから故のトラブルなども耳にするようになってきた。ナイトゲームではお互い顔が見えないために挨拶などもしにくい場合も多く、誤解を招くこともあるかもしれないが、自ら進んで声かけを行うなど、楽しい釣りができるように自分なりのルール・環境を創っていくてもらいたい。そしてフィールドへと足を運び、いつの日か夢が現実となるようキャストを繰り返してもらいたいと思っ。

